

中小企業の業況は、小幅な低下状況にある。

山口商工会議所では、管内中小企業97社を対象に景況調査を実施し、このほど令和元年10月～令和元年12月期実績と令和2年1～3月期見通しについての調査結果（回答数82社、回答率84.5%）をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期の▲25%から▲26%と僅かに低下した。業種別にみると、製造業は▲8%から▲23%と大幅に低下しているが、来期は▲8%と大幅に上昇の見通しである。建設業は▲8%から8%と上昇しているが、来期は再び▲8%となる見込みである。小売業は▲28%から▲38%と低下しているが、来期は▲23%と大きくマイナス幅が縮小する見通しである。サービス業は▲23%から▲25%と僅かに低下しており、来期についても変わらない見通しである。

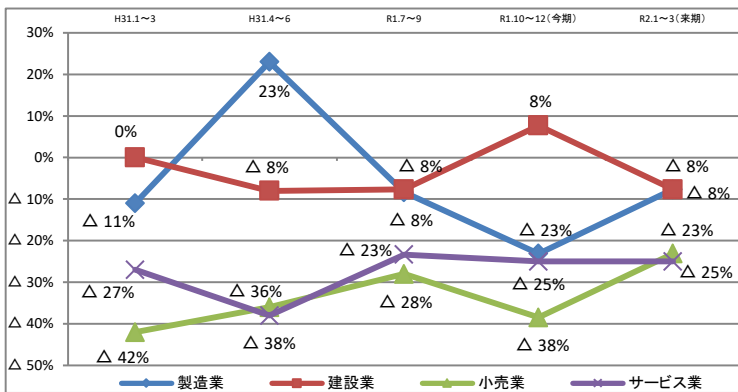
今回調査では、製造業を除く業種で従業員数が低下傾向にあり、前回調査と反対の結果になっている。また前回低下傾向であった売上に今回上昇傾向が見られた。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の24%、来期設備投資を実施予定の企業は6%であった。経営上の問題点については、需要の停滞がいずれの業種でも上位に挙げられていた。また、建設業では前回挙がっていなかった熟練技術者の確保難が再び上位に挙がった。

◆業況DI値（今期の状況）

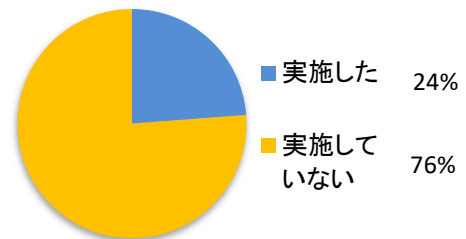
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△ 26%	→	△ 22%	→	△ 16%	→	42%	→	△ 27%	→	△ 9%	→
製造業	△ 23%	→	△ 15%	→	0%	→	92%	→	0%	→	17%	→
建設業	8%	→	0%	→	△ 8%	→	54%	→	△ 15%	→	△ 15%	→
小売業	△ 38%	→	△ 31%	→	△ 23%	→	35%	→	△ 46%	→	0%	→
サービス業	△ 25%	→	△ 21%	→	△ 19%	→	19%	→	△ 21%	→	△ 21%	→

◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

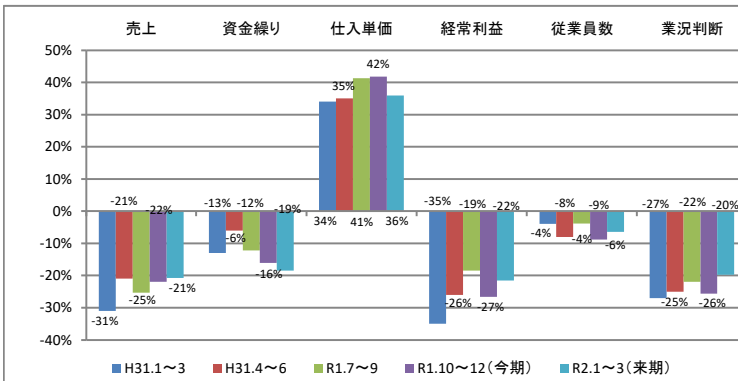


◆新規設備投資（今期実施・来期計画）

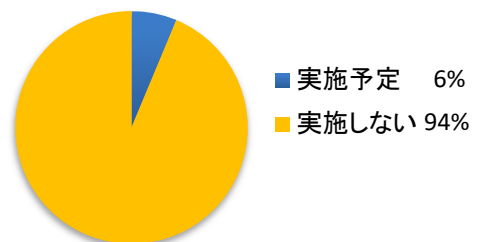
【今期設備投資】



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期設備投資計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 25.0%	熟練技術者の確保難 16.2%	需要の停滞 16.4%	店舗施設の狭隘・老朽化 15.1%
2位	原材料価格の上昇 14.3%	官公需要の停滞 13.5%	消費者ニーズの変化への対応 16.4%	利用者ニーズの変化への対応 12.3%
3位	生産設備の不足・老朽化 14.3%	民間需要の停滞 13.5%	購買力の他地域への流出 13.1%	需要の停滞 11.0%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。